

大阪市イノベーション促進評議会平成 平成 27 年度第 2 回 会議要旨

1 日時

平成 28 年 3 月 25 日（金） 8:00～9:30

2 場所

大阪イノベーションハブ（WEB 会議）

3 出席者

松本委員長、吉原委員、藤沢委員、田路委員
事務局（吉川理事、高田部長、中野課長、小林課長代理）

4 議題

- ・平成 27 年度並びに平成 25 年度からの 3 年間の大阪イノベーションハブの活動状況と評価について
- ・「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針」の改定について
- ・平成 28 年度の取組みについて

5 会議概要

（1）平成 27 年度並びに平成 25 年度からの 3 年間の大阪イノベーションハブの活動状況と評価について

- ・3 年間でずいぶん土台ができてきている。支援したプロジェクトには今後の大きな可能性を感じるし、コミュニティの形成もいい道筋ができています。
- ・未達成の数値目標もあり謙虚に評価しているが重要視されるほどの差ではない。質が重要。
- ・イベント以外にも海外での活動やメディア露出の機会もあり質的にも広がっている。
- ・東京以外でこれほど海外とつながりができている都市はない。全国各地でも大阪の取組みへの評判を耳にする。世界的にも民の力だけで成功する都市は極めて少ない。行政がやるから安心感があり、それでこそできる関係や集積もある。そこを大事にするべき。
- ・他都市の状況は参考程度に、大阪・関西は高いレベルでこれからの日本の新しい姿を打ち出し、ベストプラクティスとなるよう期待する。

（2）「うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針」の改定について

- ・目標数値の達成とともに、クオリティ（成功確率）を上げる努力が必要。
- ・大企業のみならず、中小企業とも連携することでスタートアップの力が高まる。

ものづくりベンチャーにとって、中小の製造業が多い大阪は絶好の連携の場。

- 支援事例をライブラリー化して将来の起業家と共有し、仲間同士で学ばせる場を作ってあげるといい。
- ピッチイベントは、大阪イノベーションハブだけでなく、企業や大学内でやるなど、外部と連携してうまくパッケージ化すると効果的。投資については、最近大学が次々とVC業を始めているので、大阪イノベーションハブにも協業のチャンスはある。うまく活用すべき。
- 文部科学省のリサーチコンプレックスなど他拠点ともダイナミックに連携すべき。
- IT以外にハードウェアにも目を向けると、大企業とのオープンイノベーションの題材、大学ファンドの投資先などの「需要」にうまく対応できるのではないか。

(3) 平成 28 年度 of 取組みについて

- 海外ネットワークの拡大を本格化し、コネクタ人材を強化して日本にも還元させるよう取り組むべき。
- 事例のシェア、パッケージ化、学生等への教育プログラムを特に実践してほしい。大学のアントレプレナー教育はまだまだ機能していないので、市が前面に出て頑張ってくれることに期待している。早期に起業家マインドの教育を受けると、すぐにはなくとも効果はあると思う。大学も役所も専門の人材が推進しないといけない。
- ゼロからのプロジェクトの創出や、既存プロジェクトの「死の谷」を克服するための支援など、行政として取り組むべきステージを意識すべき。
- 民間移行に向け、最初に明確にゴールを設定し、透明性を確保したうえで、行政として最低限の役割・責任の明確化を図ること。

6 会議資料

- (1) 資料 1 平成 27 年度事業にかかる目標設定とアウトカム (成果) について
- (2) 資料 2 うめきた基本方針の平成 25 年度～27 年度の取組みの評価と改定案
- (3) 資料 3 GI 事業 平成 28 年度の取組みについて
- (4) 参考資料 1 うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針 (平成 25 年 5 月)
- (5) 参考資料 2 うめきたにおけるグローバルイノベーション創出支援の基本方針 改定版 (平成 28 年 3 月)